

人や地域を繋げるパフォーマンスプロジェクト
『SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony-』
六本木アートナイト 2016 スペシャルバージョンみどころ
／ジェニー・シーレイとのトークイベント



SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony- 1st mov. 青山公演 / PHOTO: 427FOTO

このたび、10月22日（土）に参加する「六本木アートナイト 2016」スペシャルパフォーマンスにおけるみどころをご紹介します。同時期開催の「スポーツ・文化・ワールドフォーラム」に登壇する森田かずよや、今、車椅子ダンサーとして話題のかんばらけんたも登場。ぜひご期待ください。また、関連イベントとして20日（木）には総合演出の栗栖良依とロンドン・パラリンピック開会式の共同ディレクターを務めたジェニー・シーレイとの対談が決定しました。ぜひご取材・ご掲載の検討をお願いいたします。

開催概要

SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony- 六本木アートナイトスペシャルバージョン

日程：2016年10月22日（土）

時間・場所：プレパフォーマンス13:45～（15分程度） 66プラザ

メインパフォーマンス14:30～（30分程度） 六本木ヒルズ アリーナステージ

総合演出：栗栖良依（SLOW LABEL）

参加アーティスト：池田美都、井上信太、井上唯、金井ケイスケ、かんばらけんた、さをり工房ゆう、高津会、武田久美子、坂東美佳、西岡弘治、藤原一毅、三角みづ紀、望月茂徳（立命館大学）、森田かずよ、ルフトツーク 他

主催：六本木アートナイト実行委員会

共催：スロームーブメント実行委員会（特定非営利活動法人スローレーベル、スパイラル／株式会社ワコールアートセンター）

特別協力：スポーツバイアートイニシアチブ、ヤマハ株式会社、ヤマハ発動機株式会社

協力：アトリエコーナス、ラック産業株式会社

取材及び本イベントに関する資料、写真をご希望の際は下記までご連絡下さい。

スローレーベル広報担当 橋爪（はしづめ）

E-mail pr@slowlabel.info TEL 045-661-0602 / 080-6190-7071 FAX 045-661-0603

六本木アートナイトとは？

「六本木アートナイト」は今回で8年目（7回目）※の開催となります。過去6回は春に開催してまいりましたが、今年は秋に季節を移し、さらに日程も1日延長した3日間で開催いたします。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等を見据え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベントとなる国際会議「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム※」に合わせ、本イベントを同時期に開催することにいたしました。

「六本木アートナイト」は、生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案と、大都市東京における街づくりの先駆的なモデル創出を目的に、2009年3月に一夜限りのアートの饗宴としてスタートしました。様々な商業施設や文化施設が集積する六本木を舞台に、現代アート、デザイン、音楽、映像、パフォーマンス等の多様な作品を街なかに点在させ、非日常的な一夜限りの体験をつくり出す本イベントは、東京を代表するアートの祭典として年々発展を続けております。（ウェブサイトより転載）

<http://www.roppongiartnight.com/2016/>

SLOW MOVEMENT 六本木アートナイトスペシャルバージョンのみどころ

今回のスペシャルパフォーマンスでは、世界で活躍する障害者パフォーマーと、スロームーブメントのアカンパニスト（*）とアーティストがともに舞台上上がり、客席も巻き込みながら、「言葉」と「オブジェ」を使ったパフォーマンスを繰り広げ、＜多様性と調和＞の世界を描き出し、アリーナ全体を一つの不思議な空間に仕立てます。

また、楽器をデザインするヤマハと、乗り物をデザインするヤマハ発動機が共同開発した、音を奏でる車いす「&Y(アンディ)01」も、昨年に引き続き登場。2016年の「グッドデザイン賞」受賞決定後、初のパフォーマンス参加です。

*** アカンパニストとは・・・**

障害のある人がアート活動に参加するとき、環境面、創作面、物理面、心理面…… 様々な側面から、アート活動をサポートする役割を果たす存在としてスローレーベルが考える役割の一つ。アカンパニスト（＝伴奏者）は一緒に創作活動を行い、お互いの充実した創作体験や、最高の作品づくりを目指し活動に取り組みます。もう一つの役割として、ひとりひとりにとって最もよい環境をさぐり、創造性が発揮できる環境を整える人材、アクセスコーディネーターの実践と育成も行っています。

詳しくはこちら>><http://www.slowlabel.info/project/access/>



音を奏でる電動アシスト車いす「&Y01」

メインキャスト

森田かずよ、かんばらけんたなどの障害者パフォーマーと、サーカスアーティストでありパフォーマンスディレクターも務める金井ケイスケ、高津会率いるアカンパニストのほか、詩作の三角みづ紀、美術を手がける井上唯も舞台上に登場し、不思議な世界を作っていきます。

(写真左より、文中登場順)



2016年「グッドデザイン賞」を受賞したパフォーマンス用車いす「&Y01」も登場

音符やヨットをイメージした白いボディに、メディアアーティストの望月茂徳がデザインした音と動きが連動するインタラクティブメディアを装着して駆け巡り、パフォーマンスを盛り上げます。

<緊急決定！関連イベント>

対談 栗栖良依 (SLOW LABEL ディレクター) × ジェニー・シーレイ (演出家)
「インクルシブな社会をめざして」

日時：10月20日(木) 19:00～

場所：ヒルズ カフェ/スペース (手話通訳あり)

協力：ブリティッシュ・カウンシル、@TA-net

先月閉幕したばかりのリオパラリンピックの文化プログラムや開閉会式を経て、2020年東京大会に向けた展望などを語ります。

<http://www.roppongihills.com/events/2016/10/002037.html>

ジェニー・シーレイ (演出家)

障害のあるプロの俳優やスタッフによる英国の劇団、グレイアイ・シアター・カンパニーの芸術監督を1997年から務め、手話と音声描写を効果的に取り入れた革新的な作品を創作、英国やヨーロッパで高い評価を得ている。英国の舞台芸術セクターのアクセシビリティ向上に大きく寄与し、2009年、大英帝国勲章 MBE を受勲。2012年のロンドン・オリンピック・パラリンピック競技大会関連文化プログラムのひとつである「Unlimited」アーティストティック・アドバイザー、ロンドン・パラリンピック競技大会開会式の共同ディレクターを務めた。



SLOW MOVEMENT 作品概要

「SLOW MOVEMENT」とは、総合演出・栗栖良依のもとに詩人・三角みづ紀が本プロジェクトのために書き下ろした一編の詩「The Eternal Symphony」を、サーカスアーティスト・金井ケイスケを中心に、年齢、性別、職業、障害の有無を越えた多様な市民と様々な分野のアーティストが、ワークショップを重ねながらつくる参加型パフォーマンスプロジェクト。

見る見られるの境界を超えて、人の動きや気配が共鳴し、自然の光と音が紡がれる。楽譜の迷宮に迷い込んだような身体と五感を使って楽しむ交響曲が、これからの人と生命と世界のあり方を人々に問う作品です。

昨年は、スパイラル、国連大学前広場、豊洲公園、そして2016年には象の鼻テラスにて1st mov. (第一楽章) を発表しました。



総合演出 ディレクタープロフィール

栗栖良依 くりす・よしえ (クリエイティブディレクター、特定非営利活動法人スローレーベル 理事長)

1977年東京都生まれ。7歳より創作ダンスを始める。高校生の時にリレハンメルオリンピックの開会式に感銘を受け、卒業後は東京造形大学に進学。在学中から大手イベント会社に所属し、スポーツの国際大会や各種文化イベントで運営や舞台制作の実務を学び、長野五輪では選手村内の式典交流班として運営に携わる。2006~07年、イタリアのドムスアカデミーに留学、ビジネスデザイン修士号取得。帰国後、東京とミラノを拠点に世界各地を旅しながら、各分野の専門家や地域を繋げ、商品やイベント、市民参加型エンターテインメント作品のプロデュースを手掛ける。10年、骨肉腫を発病し右下肢機能全廃。翌年、右脚に障害を抱えながら社会復帰を果たし、国内外で活躍するアーティストと障害者を繋げた市民参加型ものづくり「スローレーベル」を設立。14年「ヨコハマ・パトリエナーレ 2014」総合ディレクターを務め、日本のコ・クリエイションアワード ベストケーススタディ賞受賞(インフォバーン、電通)。

主な市民参加型エンターテインメント作品：

- 『しゃったあず・4』(新潟県、越後妻有アートトリエンナーレ公式作品、2009)
- 『神山農響楽団』(徳島県、神山アーティストインレジデンス特別招聘作品、2011)
- 『ゆだまん』(愛媛県、道後オンセナート公式作品、2013/2014)



パフォーマンスディレクタープロフィール

金井ケイスケ かない・けいすけ (サーカスアーティスト)

中学在学中に新宿で大道芸を始める。97年文化庁国内研修員として能を学んだ後、99年文化庁海外派遣研修員として、日本人で初めてフランス国立サーカス大(CNAC)へ留学。卒業後フィリップ・デュクフレ演出のサーカス『CYRK13』で2年間のヨーロッパツアー。その後、フランス現代サーカスカンパニー「OKIHAIKUDAN」をセバスチャン・ドルトと立ち上げ、ヨーロッパ7カ国を巡演し、リバイバル公演など150公演以上。フランス外務省派遣カンパニーとして、中東、アフリカ25カ国で公演、劇場文化の無い都市、紛争地域で人種や宗教を超えたワークショップや発表を行う。2009年帰国。パフォーマンスグループ「くるくるシルクDX」参加。札幌芸術の森、越後妻有アートトリエンナーレ、横浜 Bankart、茨城・アーカス他、国内外のフェスティバルに出演。



参加クリエイター プロフィール

<キャスト>

森田かずよ もりた・かずよ (義足の女優・ダンサー / 特別出演)

二分脊椎症・先天性奇形・側湾症を持って生まれる。高校生の時に観たミュージカルがきっかけで、18歳より芝居を始める。

「Performance For All People.CONVEY」主宰。循環プロジェクト『≒2 (にあいこーのじじょう)』(2008年) 奈良障害者芸術祭 HAPPY SPOT 奈良 「鹿の劇場 ～からだの発見～」 ソロダンス「アルクアシタ」(2012年) / ニットキャップシアター第33回公演『小年王マヨワ』(2013年) / ヨコハマ・パラトリエンナーレ(2014年) / ファウストの恋人(2015年) / 庭劇団ペニノ「タニノとドワーフ達によるカントールに捧げるオマージュ」(2015年) 他多数。第11回北九州&アジア全国洋舞コンクール パリアフリー部門チャレンジャー賞、DANCE COMPLEX vol11 芸術創造館・館長賞受賞。

※ 森田かずよは、前日に国立新美術館で行われる「スポーツ・文化・ワールドフォーラム」内、文化会議 分科会「文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて」にも登壇します。

かんばらけんた かんばら・けんた (車椅子パフォーマー)

「二分脊椎症」という障害を持って生まれ、システムエンジニアとして働く。2015年、SLOW LABEL『スロームーブメント』に車椅子ダンサーとして出演したことをきっかけに表現活動を始め、現在は「Integrated Dance Company 響 Kyo」にも所属し、活動の幅を広げている。車椅子の上で逆立ちなどアクロバティックな演技が特徴。

高津会 たかつ・かい (ダンサー)

お寺の住職をしている日本人の父とドイツ人の母のもと、家業を手伝いながら高校生でダンスを始め、卒業後の2010年に渡英。障害者の自立支援センターOrpheus Centreで1年間スタッフとして活動をしながら障害のある生徒達にダンスを指導。ロンドン・パラリンピック開会式の芸術監督ジェニー・シーレイ(Graeae Theatre Company)と共にThe Royal Opera Houseにて演劇作品を発表。帰国後、長野県須坂市を拠点に、各地でパフォーマンス活動を行いながら、中野西高校ダンス部の外部講師として全国大会に導く。スタジオLUX INSPIRE代表。ペドロ・マシャド(Candoco Dance Company 芸術監督)や、ジェニー・シーレイ来日時ワークショップアシスタントを務める。

三角みづ紀 みすみ・みづき (詩人 / 詩制作)

詩人。1981年鹿児島県生まれ。東京造形大学在学中に詩の投稿をはじめ、第42回現代詩手帖賞受賞。第1詩集『オウバアキル』にて第10回中原中也賞を受賞。第2詩集『カナシヤル』で南日本文学賞と歷程新鋭賞を受賞。書評やエッセー執筆、詩のワークショップもおこなっている。朗読活動を精力的に続け、自身のユニットのCDを2枚発表し、スロヴェニア国際詩祭やリトアニア国際詩祭に招聘される。2014年、第5詩集『隣人のいない部屋』で第22回萩原朔太郎賞を史上最年少受賞。2016年8月、第7詩集『よいひかり』(ナナロク社)を上梓。美術館での展示や作詞等、あらゆる表現を詩として発信している。

井上唯 いのうえ・ゆい (アーティスト / 美術)

愛知教育大学 教育学部 造形文化コース 織専攻卒業。金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 染織コース修了。「織」から始まった興味が、次第に空間へと広がり、特定の場に対してモノをつくることにおもしろさを感じるようになる。また移動生活を楽しむ一方で、ひとつの土地に根差してしかできないことがあることに気づき、湖と山と川に惹かれ滋賀県に移り住む。生活のなかでやりたいことと、制作とが繋がってくるとおもしろいなと思っている。「公募京都芸術センター2009 井上唯 『虚空に浮かぶ月』/clipper 『アウトライン-電車編』 粟島アーティスト・イン・レジデンス(粟島 AIR) 2010 / Autumn」【神山アーティスト・イン・レジデンス(神山 AIR) 2011】「六甲・ミーツ・アート 2013 芸術散歩」 六甲オルゴールミュージアム (兵庫) 他。第37回毎日 DAS 学生デザインコンペ・金の卵賞、ておりや 30周年記念公募展・大賞他。

<クリエイター>

西岡弘治 にしおか・こうじ (アーティスト / タイトルバック描画制作)

1970年生まれ、大阪在住。アトリエコーナス所属。幼少の頃から文字という記号的なものに興味があり、広告の裏や学習帳に書き連ねる。2004年後半から作品制作をスタートし、2008年に「かんでんコラボ・アート21」で最優秀賞を受賞。2010年からは大阪で個展やグループ展を開催。2006年より「SONATINE」の楽譜の模写をはじめ。以来200点あまりの楽譜作品を生み出し、国内外で大きな評価を得ている。2012年7月には、その内6点がフランスのabcdコレクションに入る。

武田久美子 たけだ・くみこ (コスチュームデザイナー / 衣装)

多摩美術大学テキスタイルデザイン学科にて、染色技法の他、シルクスクリーンプリント技法を専門に学ぶ。在学中、有志でファッションショーを催した際の衣装が演劇関係者の目にとり、それがきっかけとなりコスチュームデザイナーの道へ。テキスタイルの技術を生かしながらの舞台衣装デザインに興味を持ち、卒業後にロンドンへ渡英。London College of Fashion の衣装デザイン学科で、デザインを始め、服飾のパターン、製法、服飾・舞台史など学ぶ。引き続き同校の大学院にて、より専門的、技術的に、ステージ上での衣装の役割や効果を模索するようになる。大学院卒業後、マルチアーティストの Lucy Orta のアシスタントや、舞台デザイナーの Dick Bird、ファッションデザイナーの Walid Al Damirji と共に制作活動をする他、現在までにグローブシアター、パービカンシアター、ノッティングヒルカーニバルなど、演劇、ダンス、その他様々なパフォーマンスの衣装デザイン、制作をしている。2012 年からは拠点を日本に移し、広告や雑誌、CM、モダンバレエの衣装など活動の場所を広げている。

坂東美佳 ばんどう・みか (ミュージシャン / 音楽)

愛知県にて、音楽家の両親のもとに生まれる。東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。2003 年渡米し、他分野への強い興味のもと、Berklee 音楽院シンセサイズ科ボーカル専攻入学。歌うことを学びながら、クラシックにルーツを持つ電子音楽に目覚め、作曲を始める。在学中に作品が認められ、Roland 賞を受賞。卒業後も、演奏活動を続ける傍ら、映像とのコラボレーションや、池田綾子、クレモンティーヌ、TATOO らへの英詞提供などを行う。2008 年 NY へ移住。NY ファッションウィークに携わり、アシスタントディレクションや、音楽を担当する。2010 年帰国。現在、演奏活動を行う傍ら、写真とのインスタレーションや web、ゲームなどへの楽曲提供、歌詞提供(英詞)を行っている。クリスタルな歌心のあるピアノと、倍音を持つ柔かな歌声で、クラシックとエレクトロニックを行き交う独特な世界観を表現している。2012 年、kogoe project を立ち上げ、新しいコラボレーションを展開する。

望月茂徳 もちづき・しげのり (メディアアーティスト・立命館大学映像学部准教授 / インタラクティブメディア)

ヒューマンインターフェイルやインタラクティブ映像技術に「うきうき」「わくわく」「ちょっとヘン」のスパイスを加えて、身の回りの「ふつう」を「あそび」や「はっけん」に帰するようなメディアアート/インタラクティブメディアを専門分野とする。また、『劇団ティクバ+循環プロジェクト』(KYOTO EXPERIMENT2012)における舞台美術『車椅子 DJ』の制作や高齢者施設におけるインタラクティブメディア開発など、デジタルアート/エンターテイメント技術を用いた生存学研究もしている。筑波大学院システム情報工学研究科単位取得。博士(工学)。独立行政法人情報処理推進機構より「天才プログラマー/スーパークリエイター」認定。

ルフトワーク るふとつーく (テクニカルディレクター / テクニカルディレクション・音響)

映像、照明、音響、企画、プロデュース、運営、総合的なアートディレクション、テクニカルディレクション、システム開発、出版、アーティスト・企業運営団体のためのテクニカルスタッフ・機材のコーディネートを行う。東京とアムステルダムを拠点としたインディペンデント・レーベルでありクリエイティブ・プロダクション。様々な事象の混沌とした状況に、ある傾向を発生させ、常に最適な状況を導きだし、物事のうねりとなる存在でありたいと考える。風通しのよい新しいアイデアを常に発展させ、対象となる人や物事との関係性、意識の共振を大切に、プロデュース、企画、クリエイティブに取組、人々が経験する感覚を軸にクリエイティブな指針を展開し、身体的な経験と共に曖昧なメディアの媒介として、様々なプロジェクトに参加している。

池田美都 いけだ・みと (映像作家 / 記録映像)

1977 年生まれ。多摩美術大学芸術学部卒業後、撮影監督のアシスタントを経て、2010 年独立。以降、MV や CF のカメラマンとして活動しながら、自らが撮影・編集・監督をおこなう映像作品も手がける。物語のあるドキュメンタリーをテーマに、音楽、芝居、多彩なアーティストとコラボレートしながらの映像づくりを目指す。主な作品「ひとひろはん」(~SLOW LABEL、うみとそらのものづくり展 2014 にて上映)「日光写真のできるまで」(アーティスト木村崇人 SMART ILLUMINATION 横浜 2014 にて上映)「にちへんに」(板橋区築 35 年のマンションの交流ドキュメンタリー 2014 三井不動産サスティナブルコミュニティ研究会イベントで上映)「浄霊師 神島千尋 いま見えている世界がすべてではないのです」(2015 大阪と東京にて上映)